

民家園：旧中野義盛家住宅

旧中野義盛家住宅は、白川村の北西端にあった加須良の集落から合掌造り民家園に移築された 3 棟の合掌造り農家のうち、最も新しいものである。中野義盛家の旧宅が焼失した後、1909 年に建てられた。1 階の居室に大きな空間があるのが特徴である。屋根の棟と平行に架けられた構造体を支える中央の梁は、園内の住宅の中で最も太く、この家の建築に要した費用と労力を物語っている。

このような豪邸を建てることができたのは、中野義盛家が伝統的に裕福で、7 軒の家と 1 つの寺からなる僻地の集落・加須良の名主を世襲していたからである。何百年前から人が住んでいた加須良だが、20 世紀半ばになると、交通の便が悪く、電気などの設備も整っていないため、移住を考える人が増えていた。そのきっかけとなったのは、1960 年代に製紙会社が加須良周辺の森林を村人から買い取ったことだった。1967 年には廃村となり、境川を挟んだ対岸の桂集落（富山県）も同様に廃村となった。中野義盛家住宅の 2 階には、離村前の二つの村の様子を撮影した写真が展示されている。